自己資金検討ワーキンググループ（第３回）議事要旨

１．日　時：令和８年１月２１日（水）１０：００～１１：３０
２．場　所：オンライン開催
３．出席者：三枝信子主査、戸谷圭子委員、髙山弘太郎委員、関谷毅委員
　　参考人：石田一郎 日本対がん協会常務理事、
　　井上浄 株式会社リバネス代表取締社長 CCO
４．議事次第
　（１）前回議事要旨（案）について
　（２）自己資金獲得について（参考人発表）
　（３）その他
５．配布資料
　資料１　　前回議事要旨（案）
　資料２　　日本学術会議のファンドレイジングについて
　資料３　　株式会社リバネスの取り組み紹介
　資料４　　自己資金獲得に関する基本指針（案）
　資料５　　各国アカデミーの予算状況について

６．議事概要
　自己資金獲得について参考人からの説明の後、質疑を行った。主なやりとりは以下のとおり。

（資料２について）
・本来の公益活動と広報の充実が最も重要である。
・キャッチーな言葉は特効薬になるかもしれないが、活動にしっかりと取り組み、ファクトを積み上げて適切なメッセージを発信することが重要。がん患者の支援に関しては相手の状況によって受け止め方が異なるため、ワーディングには気を付けている。丁寧な説明を行い、動画も活用して広報している。
・寄附金は郵便振替やクレジットカードなど多様なチャネルを通じて受け入れており、宣伝はネットやＳＮＳ、新聞等を通じて行っている。企業のポイント寄附やチャリティ団体に選んでもらうなど、様々な工夫を行っている。

（資料３について）
・雑誌に企業のインタビュー記事を掲載しており、企業のＰＲに繋がるということで企業から資金を得ている。
・掲載する企業のバランスは、まず研究動向を踏まえて発信するテーマを選定し、それに合わせて偏りがないよう企業を募っている。
・紙媒体の発刊について、編集業務を社内の人材育成のトレーニングに位置付けて経験を培っており、ノウハウが社内に蓄積されている。

（その他）
・ファンドレイジングに携わる人は、コミュニケーション力が高いこと、研究のことを分かりやすく伝える力が重要である。

以　上